

「日韓和解と平和を求める宗教者市民社会プラットフォーム」について

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

9月末に、日本基督教協議会(NCCJ)の総幹事である金性済牧師から電話がかかってきました。以前から様々な集会や日韓の教会関係の交わりを通して面識のある関係ではありましたが、個人的に電話で話すことはめったにありませんでした。結論から言うと、2020年に発足した「日韓和解と平和を求める宗教者市民社会プラットフォーム(略称日韓プラットフォーム、以下「日韓PF」)の日本側の事務局に加わってくれないか、というご依頼で、いろいろ事情を伺ったうえで承諾しました。

実は、既に自分はこの日韓PFの発足当初から賛同の意を表して、会員としては登録していました。今度は、数名の推薦があってその全体の運営に携わる事務局の一員になることになります。なお、常勤という形ではなく、無給のボランティアとしての参加が前提です。

日韓PFは、2019年5月にソウルで開かれた平和運動に携わる日韓の宗教者と市民運動の代表者との懇談会がきっかけでした。この日韓の有意義な出会いを、持続的な交流の関係へと発展させられないか、という意見が交わされ、その後およそ一年の準備を経て昨年7月に発足しました。

日韓PFが胎動した2019年、朝鮮半島での和解ムードは行き詰まっていました。前年度の2018年には、南北の政権が2月の平昌オリンピックから4月の板門店南北共同宣言へと動き出し、さらに米朝もシンガポール会談へと進みました。しかし、その動向は9月の平壤南北宣言後、2019年に入り、失速状態を迎えました。同年6月の大阪サミットに続き、劇的に南北朝鮮の首脳の間での対面がなされましたが、その直後、7月に安倍政権は韓国への半導体原料の輸出規制を発表し、日韓関係は「ホワイト国(輸出手続き優遇国グループA)」からの韓国除外問題(7月)、GSOMIA(軍事情報包括保護協定)終了表明問題(同年8月から11月)などによって急激に冷えました。

このように、悪化する日韓関係に対する危機感から生まれた日韓PFは、東北アジアという地域において日本と韓国の市民民主主義、そして両国の和解と平和の関係を、宗教と市民社会の“草の根”の地平から構築していくための枠組みとして、次のような多様なテーマに取り組むグループと人々が、連帯と協働の道を模索していきます。

- ①憲法9条をはじめ、日本の立憲民主主義を守る取り組み
- ②朝鮮半島と日本の非核化と平和を訴える市民運動
- ③日韓の近現代史に立ちだかる歴史と人権問題に“被害者中心”的地平から取り組む運動
- ④朝鮮学校問題をはじめ在日コリアンに対するヘイト・民族差別問題に取り組む運動
- ⑤在日外国人移住労働者の人権に取り組む運動

⑥日韓の正しい歴史教育問題への取り組み

⑦沖縄米軍基地問題への取り組み

「正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩む」(ミカ書6:8)

人々と共に、東北アジアの和解と平和の実現への道が開かれることを信じ、その希望の灯をともしながら歩みます。